129 肝RIアンギオ法による肝血流比分布図の作成と技術的検討

益井　謙，奥田良和，石井敏雄（松江赤十字病院放射線科）
堀　郁子，神波雅之（鳥取大学放射線科）
山本修三，河原泰人（倉敷中央病院RIセンター）

肝動脈血流分布を視覚的に，形態的に表すことを目的に，肝RIアンギオ法を用いて，肝血流比分布図（Hepatic Blood Flow Ratio map：以下HBFRと略す。）を作成した。

肝全葉に設定したROIに外接するMatrix ROIを設置（Max. 128個）し，それぞれのMatrix毎のTACを作成し，平田らの方法により，肝血流成分比を求め，その割合に応じたカラーでMatrix ROIを埋めてHBFRを作成した。

smoothingのpoint数，weight，或はMatrix sizeの選択等，技術的検討を加え報告する。

130 肝RIアンギオ法による肝血流比分布図の臨床的検討

石井敏雄，奥田良和，益井　謙（松江赤十字病院放射線科）
堀　郁子，神波雅之（鳥取大学放射線科）
山本修三，河原泰人（倉敷中央病院RIセンター）

肝RIアンギオ法による肝血流比分布図（Hepatic Blood Flow Ratio map：以下HBFRと略す。）を用いて肝臓疾患に対する臨床的評価を試みた。

その結果，肝硬変症等の肝血流パターンが一瞥でき，肝腫瘍周囲のvascularityの評価，Lipiodol塞栓術の経過観察等，Interventional Radiology手技の質的評価が，Mappingによる視覚的効果により，客観性が一層向上し，臨床応用上有用と認められた。

131 因子分析による肝血行動態検査での，肝機能評価の検討

市川今朝登，田口英二，手島泰明（獨協医大，RI診断），藤原弘道，大江　毅（同大，第2内科）

前27回総会において，各種肝疾患を対象として，我々は，^{99m}TC-PMT.を用いた肝血流動態検査において，パラメータ解析，門脈血流成分比等による肝疾患の病態分類の定量化について報告したが，今回更に簡略化した方法での因子分析を用いた肝血流動態検査を施行し定量的評価を行った結果，各種肝疾患群の病態重症度分類が可能となり，肝機能評価法として有用性が示唆されたので報告いたします。方法としては，各種肝疾患32例を対象として，肝のDynamic Imageの腹腔動脈部の立上りから，2分間での因子分析結果を基に，寄与率Ratoパターン化分類定量化解析を施行し，従来からの肝機能評価法と比較検討した。

132 蓄積像による肝硬変の評価

小林　真，鈴木　豊（東海大学放射線科）

肝疾患における蓄積像の臨床的意義を検討し，その有用性を報告してきた。蓄積像の画像上の意義は動態情報の静止的可視化にあり，その評価の妥当性を帰納的に主張してきた。こんかい，蓄積像の肝血行動態評価における妥当性の理論的検討とともに肝硬変の重症度判定に対し検討を加え報告する。

対象は1987年1月より蓄積像施行例500例中確定診断のついた肝硬変63例（代償性41例，非代償性22例），肝内腫瘤を有さず肝機能検査上正常値を示す正常対照例82例，計145例である。　方法は既報の如くである。

蓄積像における肝肺計数比にて対照群は肝硬変群に比し，また代償性肝硬変群は非代償性肝硬変群に比し有意に高値を示した。

133 SPECT使用によるSn-colloidの臓器集積率と臨床検査値との比較検討

粟井佐知夫，清水光春，河野良寛，新屋晴孝，竹田芳弘，平木祥夫（岡山大学放射線科）　永谷伊佐雄（岡山大学核医学診療室）　三谷健，湯本泰弘（岡山大学第一内科）

腹腔鏡下肝生検あるいは一般肝機能検査にて診断の確定した慢性肝炎，肝硬変，計58例に対して肝・脾SPECTを施行し，各種臨床検査と比較検討した．

その結果，臓器あたりおよび単位容積あたりの肝集積率はr-glb，KICG，Hepaplastin testと良好な相関が得られた．

また，臓器あたりの肝集積率は腹腔鏡番地分類ともよく相関した．

SPECTによるSn-colloidの臓器集積率の定量はびまん性肝疾患の病態の把握に有用であると考えられた．

134 びまん性肝疾患のTc-99mスズコロイドを用いた肝Dynamic SPECTによる肝機能評価の臨床的意義

川崎幸子，玉井豊理，影山淳一，津内保彦，外山芳弘，瀬尾裕之，松野慎介，田辺正忠（香川医大放）
日野一郎（住友別子放），染川雅昭（東芝メディカル）

Tc-99mスズコロイドによる肝Dynamic SPECTにて肝機能予備能としての肝機能体積率を求める方法を考案し，肝癌の切除限界について検討してきた。　今回びまん性肝疾患の肝機能検査法として同方法を応用し，肝と脾の局所有効体積とK値の積の総和の比を算出し，対照群8例，慢性肝炎群14例，肝硬変群6例を比較した。　対照群平均8.987 ±2.130，肝炎群6.051 ±1.033，肝硬変群1.940 ±0.619であった。　肝機能検査としての肝Dynamic SPECTの特徴は有効肝血流量と肝網内系機能の両者の指標としてある程度定量的に捉えることができ各種肝疾患における病態を評価する上で有用と思われた。

Presented by Medical*Online